

2025年6月20日

各位

会社名 株式会社HANATOUR JAPAN  
代表者名 代表取締役社長 金 尚昱  
(コード番号：6561 東証グロース)  
問合せ先 執行役員経営管理部長 田中 一彰  
(TEL. 03-6629-4755)

## よくある質問と回答 (2025年12月期第1四半期決算)

日頃より、当社への関心をお寄せいただきありがとうございます。2025年12月期第1四半期決算開示後に投資家の皆様から頂戴した主なご質問とその回答を下記の通り開示いたします。

なお、本開示は投資家の皆様への情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として、四半期に1回開示するものです。回答内容につきましては、本開示時点を基準としつつ、投資家の皆様に回答した内容を踏まえて記載しております。

Q1. 2025年12月期1Q営業利益率改善の要因について教えてほしい。

2025年12月期1Qの営業利益率につきましては、旅行事業が前年から3.9point減少、バス事業とホテル事業は、それぞれ前年から2.9point、7.9point増加しました。

旅行事業につきましては、社内業務のシステム化により、従業員1人当たりの生産性を上げるべく展開し、FIT（個人旅行者）と韓国以外の国からの団体パッケージは前年から増加したものの、韓国からの団体パッケージが伸び悩み、前年に対し減益の結果となりました。

バス事業につきましては、コロナ禍以降、車両修繕が一巡したこと、その他原価の抑制により利益率が向上しております。

ホテル事業につきましては、ADR（客室平均単価）の増加、人員最適化による生産性向上、ランニングコストの見直し、が主な要因となっております。

Q2. 2025年12月期1Qの進捗は想定通りか。

想定とのギャップがあれば要因も含めて教えてほしい。

2025年通期業績予想（売上高72億円、営業利益18億円）は、保守的な前提のもと設定されており、2025年12月期1Qの進捗は概ね想定通りと見ています。

ただし、2～3月にかけての為替の影響（急激な円高）や、韓国内において、政治的混乱（罷免問題等）による旅行へのモチベーションの低下から団体旅行の需要が鈍かったため、航空座席を個人向け安価商品として販売したことにより、取扱人数・取扱高は増加しましたが、単価低下で収益率は抑制されました。

今後も状況を注視し、業績予想について修正が必要となった際は速やかに開示いたします。

Q3. 旅行事業の国・地域別の売上推移を教えてください。

国・地域別の売上高につきましては、具体的な国・地域は開示しておりませんが、コロナ禍以前より、カンントリーリスク分散の為、主力の韓国だけでなく、東南アジア、欧米豪への営業を強化し、その割合も前事業年度から韓国を超えるまでに成長しております。今後も、韓国以外の国からのインバウンド獲得に注力して参ります。

Q4. 為替、政治動向、旅行需要動向など含め、業績に影響を与える要素を総合的に教えてください。

当社の業績に影響を及ぼす主な要因としては、自然災害、為替変動、政治情勢、旅行需要の変動、感染症の拡大、そして風評リスクが挙げられます。

まず自然災害については、日本全国に商品を展開しているため、特定地域での災害が発生しても全体の影響を抑制できる体制を整えています。

為替面では、親会社とのウォン建て取引により、為替変動の影響を受ける可能性はあります。特に2025年2～3月には急激な円高により収益にやや影響が出ましたが、多くの商品はシリーズで事前に価格設定しており、設定時と実施時のレートに大きな差がなければ、短期的な変動による影響は限定的です。

政治情勢では、たとえば韓国の大統領交代などが注目されるものの、実際の訪日需要には大きな変動は見られず、政権の親日・反日姿勢が直接的に業績に影響する傾向は現時点では確認されていません。ただし、国家間の摩擦や入国規制の強化があればリスク要因となるため、多国籍への取引拡大や販売チャネルの分散を進めています。

また、感染症の世界的流行や米国の関税政策などの外部経済要因によっても旅行需要が影響を受ける可能性があります。これに備え、当社では内部留保や柔軟な商品企画力を活かし、変化に強い経営基盤の構築に努めています。

Q5. 外国人投資家・個人投資家の比率向上の対策、資本政策を教えてください。

当社株式取引の活発化のためにも外国人投資家、個人投資家の増加が必要であると考えており、非流通株式の保有者との協議を継続していくと共に、当社の企業価値や投資対象としての魅力をアピールすべくIR活動に努め、流動性を高めていくことを目指してまいります。

資本政策については、株主価値の持続的な向上を目指し、拡大する事業機会を迅速・確実に捉えるために必要となる十分な株主資本の水準を保持することを基本としております。

この基本方針の下、必要に応じて、調達手段を検討し充足していくこととしております。

Q6. 当社の強みを教えてください。

当社は創業以来、日本国内ホテルの閑散期に、韓国から多くの送客を行ってきた実績があり、宿泊施設と強固な信頼関係を築いております。その結果として、ホテルの仕入力においては業界内でも高い評価を受けており、価格競争力と確保力の両面で優位性があります。

また、当社は旅行業に加え、バス事業（株式会社友愛観光バス）とホテル事業（株式会社アレグロクスTMホテルマネジメント）をグループ内に有しており、インバウンド観光をワンストップで提供できる体制を構築しております。

特定地域や都市に偏らず、地方を含む全国各地の旅行商品を、世界中の旅行者に向けて展開できる点も大きな強みです。

さらに、社員が多国籍で構成されており、各国の文化や顧客ニーズを踏まえた商品企画力にも

強みがあります。

Q7. 親会社との関係性において、送客手数料率、業務独立性の確保、今後の支援・統制の方向性について教えてほしい。

親会社であるHANATOUR SERVICE INC.との送客手数料などの取引条件については開示していませんが、他の取引先と同様の条件で適正に決定しており、当社の独立性は確保されています。

経営においても、グループ方針を踏まえつつ、当社の取締役会を中心に自律的な判断で事業運営を行っております。取締役6名のうち、親会社からの非常勤取締役が3名、当社側取締役も3名であり、取締役会においてもバランスの取れた意思決定体制を構築しています。

今後も、親会社とは対等な関係を保ちながら、独立性を維持した経営を継続してまいります。

Q8. 旅行・バス・ホテルの各事業の売上、稼働率、収益性などの現状と成長性を事業別に教えてほしい。

当社は旅行、バス、ホテル等の事業を展開しており、それぞれの領域において経営効率化と需要獲得を両立させることで、収益性の向上を図っております。

旅行事業では、インバウンド需要の増加に伴い、国内外での新規拠点開設、人員配置の最適化、業務のデジタル化を進めており、生産性の向上を実現しております。特にFIT（個人旅行者）向けにおいては、旅行企画・販売支援システムの新規開発を進めており、今後の成長性は大きいと捉えております。

バス事業においては、東京・大阪・北海道・福岡の各拠点において業務効率化を図るシステムを導入し、事務員数の増加を抑えながら配車管理の一元化を実現するなど、効率化が進んでおります。稼働率は前年比で5%程度上昇しており、利益率も前年を超えている状況です。

ただし、売上高は旅行事業の韓国からの訪日パッケージの伸び悩みの影響を受け、前年と同水準に留っております。

また、ドライバー不足が業界全体の課題であり、当社としても離職防止・採用強化に努めてまいります。

以後、生産性向上による利益率の増加とともに、市場動向を分析しつつ車両増加による事業規模拡大を目指してまいります。

ホテル事業については、Tマークシティホテル4棟のうち3棟が稼働率80%後半を維持しており、特に東京大森ではインバウンド比率が高く、ADR（客室平均単価）も増加傾向です。金沢では、能登半島地震からの復興の遅れにより、市内の観光需要はマーケット全体で例年から約30%棄損していると認識されている状況下ではありますが、引き続き回復を見守りつつ国内旅行エージェントと協調し、企画商品を展開してまいります。全体としてホテル事業は他事業と比較しても最も好調で、期待以上の業績を確保しております。

新規ホテルの運営について投資対効果などを中心に精査し、事業規模拡大を目指します。

今後も各事業において中長期的な成長に向け、顧客ニーズの変化に対応した商品開発、仕入・販売力の強化、ならびに人的・システム投資を継続してまいります。

Q9. 今期中の補助金収入、固定資産売却益など一時的な収益の有無と金額を教えてほしい。

補助金収入に関しましては、東京都よりバス事業に係る燃料費補助として合計約80万円、ホテル事業においては、東京都から障害者雇用に対する助成金として約30万円を受領しております。

固定資産売却益に関しましては、バス車両6台を売却し、新たに5台を導入いたしました。この6台の売却に伴い、売却益を一時的な収益として計上しております。（金額詳細は開示しておりませんが、一定の利益が発生しております。）

いずれも一時的な収益であり、通期業績への影響は軽微であると見込んでおります。

■最新の決算情報や株主総会関連資料はこちら

- ・ IR ウェブサイト：<https://hanatourjapan.jp/ir/news>
- ・ 2025年12月期第1四半期決算短信：<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS71113/4b5ada18/5639/4e2a/a6fd/48eeff7556a9/140120250513547431.pdf>
- ・ 2025年12月期第1四半期決算補足説明資料：<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS71113/e8e7a8ff/52f0/4dc4/9066/942de47d5338/140120250514549536.pdf>
- ・ 事業計画及び成長可能性に関する事項の開示：<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS71113/6952756d/9cd2/4570/9253/1c49b4444ebe/140120250221580568.pdf>

以上